

かつらだより

学校教育アンケート(後期)

令和2年2月
京都市立桂小学校
校長 梶 聰

学校教育目標『心豊かに 楽しく 学び続ける桂の子』を具現化するために、「楽しい学校」をめざし、確かな学力の向上と豊かな心の育成に取り組んでいます。12月にご協力いただきました学校教育アンケートの結果をまとめましたので、お知らせします。ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

「重要である」「やや重要である」を合わせた数値を『重要度』、「よくできている」「大体できている」を合わせた数値を『実現度』として集計結果を取り扱っています。

質問項目（児童の質問アンケートより）

①	授業は楽しい。
②	授業はよくわかる。
③	毎日、家庭学習をしている。3年生以上は計画を立てて家庭学習をしている。
④	家で読書をしている。
⑤	自分からすすんであいさつしている
⑥	学校のきまりや約束を守っている。
⑦	学校は楽しい。
⑧	友だちやまわりの人を大切にしている。
⑨	早寝早起きをしている。
⑩	外遊びなど、すすんで体を動かしている。
⑪	毎日週予定表をみて準備をしている。
⑫	学校の先生は、話しかけやすい。
⑬	学校には、楽しみにしている行事がある。
⑭	地域には、楽しみにしている行事がある。

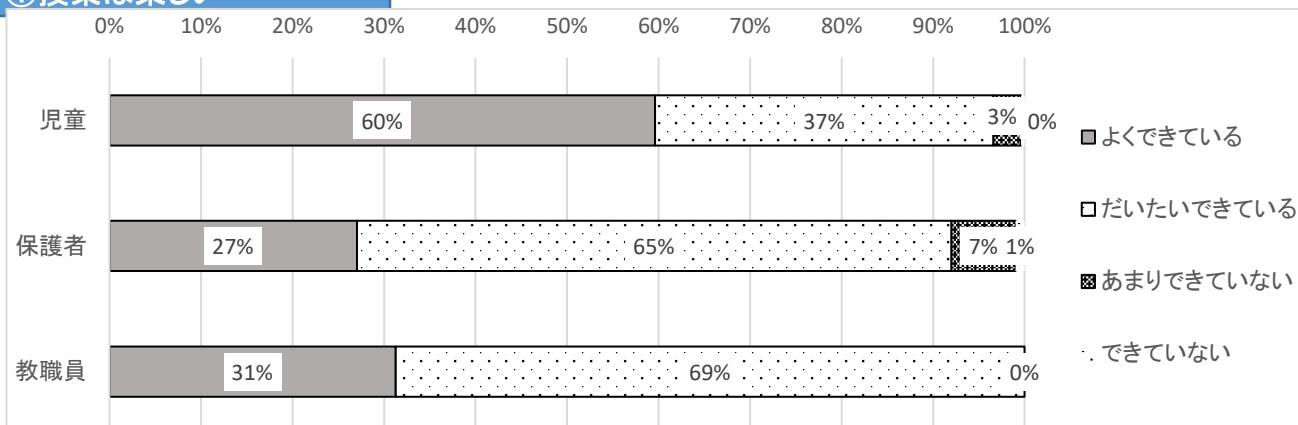
重要度の集計結果から

【保護者・教職員のみ】

前期同様保護者の方は、ほとんどの項目で95%以上の重要度となっていました。令和元年度前期とは、ほぼ同様の結果でした。教職員は、概ね100%の結果でした。

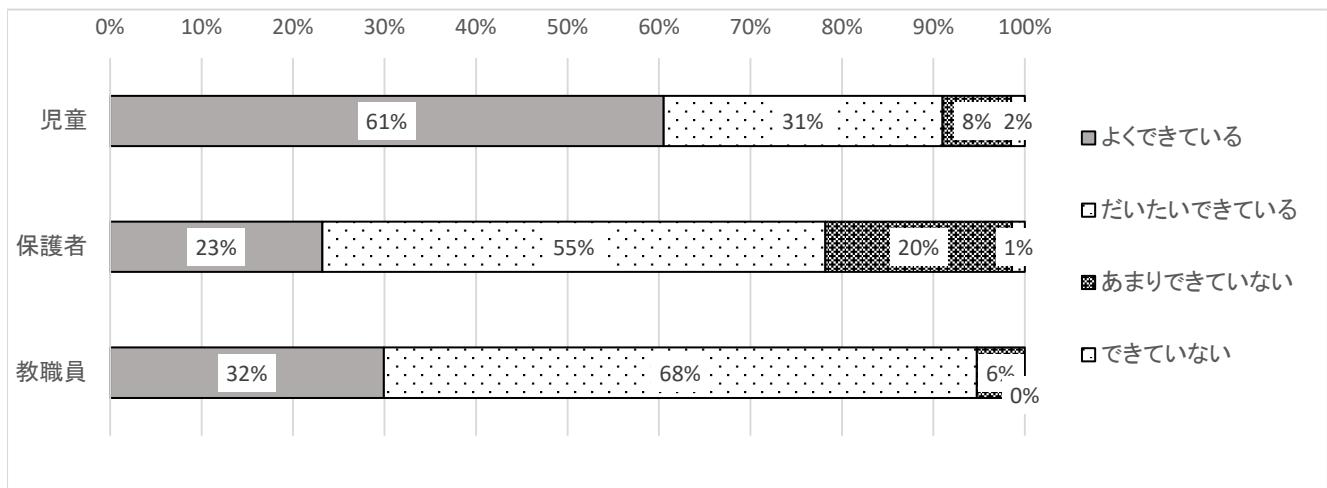
実現度の集計結果から

①授業は楽しい



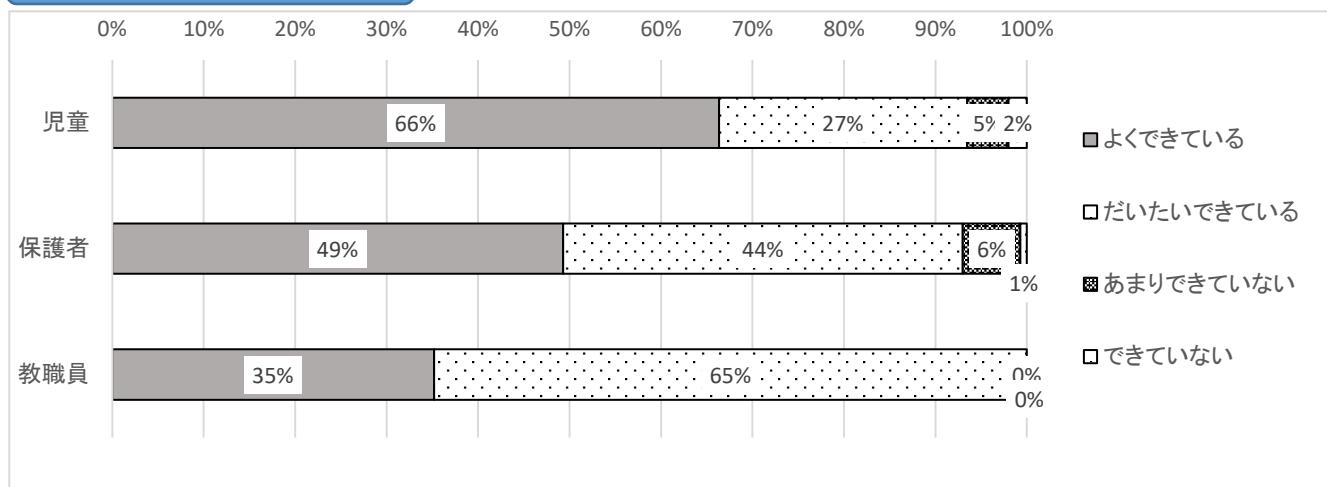
児童97%（よくできている約60%，だいたいできている約37%。以降、この順で表記。），保護者92%（27%，65%），教職員100%（31%，69%）でした。前期と比べると、児童・保護者・教職員ともによくできる・できるが増えています。教職員のわかる授業の追求が児童に伝わっていると感じる結果から、児童が意欲的に学習に取り組んでいることが読み取れます。今後も、継続できるよう、また一方で約3%の児童にもしっかり目を向けていく必要を感じています。

⑤自分からすすんであいさつしている



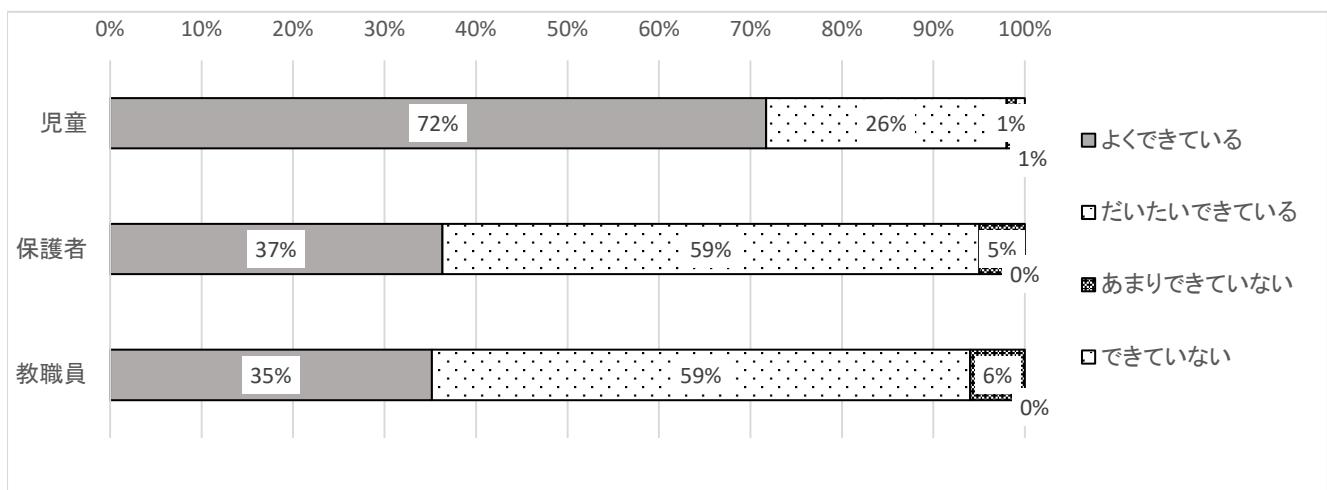
児童92%（61%, 31%），保護者78%（23%, 55%），教職員90%（32%, 68%）でした。前期とほぼ同様の結果ですが、あいさつをしていると答えた内訳で、できているからよくできているに移っていることから、意識する児童が増えていると感じています。常日ごろの声かけで改善はみられますか、継続となると難しいです。元気な気持ちの良いあいさつが、自然にできるように引き続き、環境づくりから努力していきます。

⑦学校はたのしい



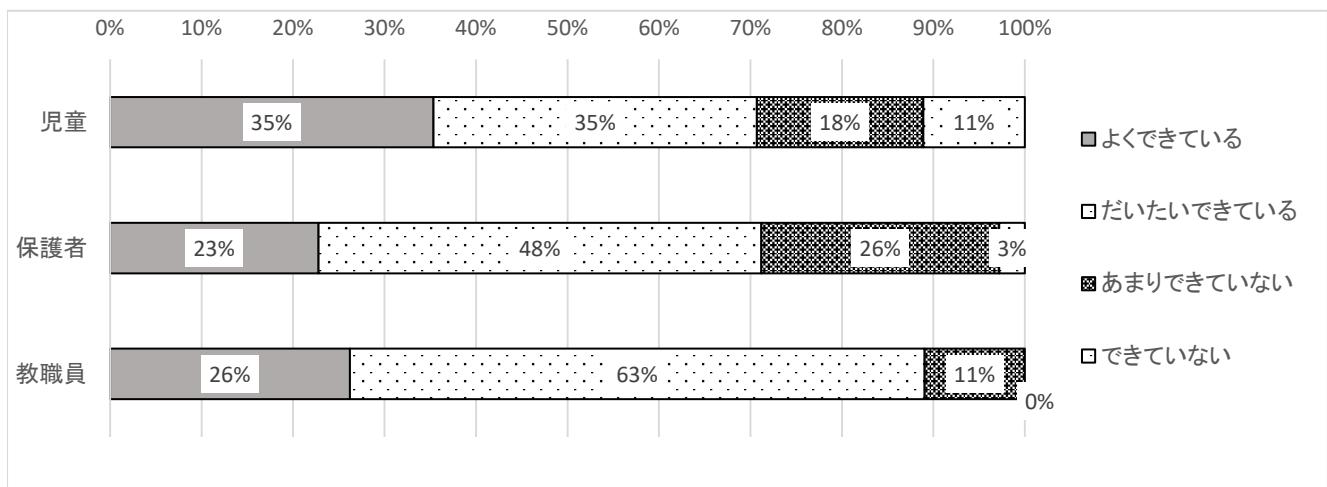
児童93%（66%, 27%），保護者95%（49%, 44%），教職員100%（35%, 65%）でした。前期と比べると、わずかですが増えていて児童は概ね楽しく通っているといえます。一方、あまりできていないと答えた7%の児童のケアをしていくことが大切であると感じています。全児童を対象に「あのねタイム」という時間を設け、担任と一人一人じっくりと話をする機会があり、児童の不安な気持ちや悩みに寄り添う取組も実施しています。そこから、児童にとって学校が安心で、居心地のよい場所となるよう引き続き努力していきます。

⑧友だちやまわりの人を大切にしている



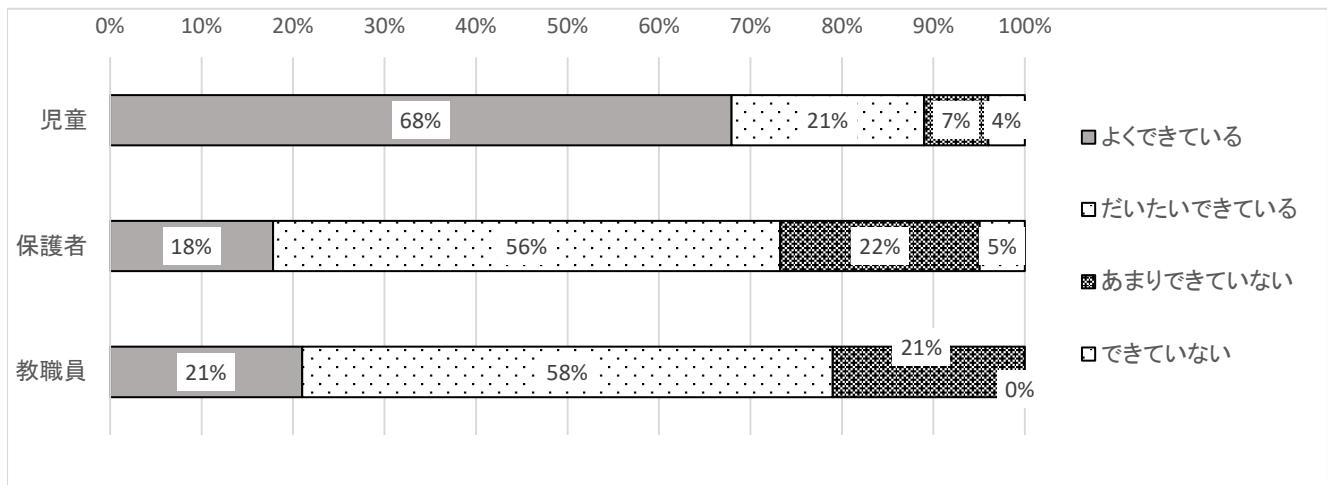
児童98%（72%, 26%），保護者96%（37%, 59%），教職員94%（35%, 59%）でした。前期同様、児童・保護者・教職員とも概ね友だちやまわりの人を大切にできていると回答しています。友だちとのかかわりに関して、「⑦学校は楽しい」と感じることの一つとして友だち関係があり、学びの場で対話を通して相手の思いを理解したり、自分の思いが発信できたりしています。友だち同士の良さを認め合う姿から各学年の結束を感じます。友だちやまわりの人を大切にし、協力して学習する環境を整えることができたのではないかと思います。

⑨早寝早起きをしている



児童70%（35%, 35%），保護者71%（23%, 48%），教職員89%（26%, 63%）でした。前期と比べると、児童が4%減っています。高学年の就寝時刻が遅くなっています。これは、家の時間の使い方、ゲームやユーチューブなど動画視聴などが要因としてあります。生活点検の結果から、1日2時間以上使っている児童が多かったことが分かっています。体調管理の面からも、引き続き早寝を心がけるとともに、質のいい睡眠をとれるように声かけをしていく必要があると考えています。

⑭地域には、楽しみにしている行事がある



児童89%（68%, 21%），保護者74%（18%, 56%），教職員79%（21%, 58%）でした。地域やPTA行事（⑬学校行事等の質問より）を楽しみに参加している児童が多くいます。休日については各家庭の都合もありますが、後期も地域の方々が児童のために楽しい行事を計画・実施してくださいました。地域・PTAなどたくさんの方にお世話になって子どもたちを健やかに育てていく取組が実施されています。引き続き参加を促す声かけとともに、地域・PTAなどたくさんの方に見守られていることを伝えていきます。

その他実現度の全般から

前期、児童・保護者・教職員の3者の実現度から、課題となる項目（読書、あいさつ、早寝早起き）がみられました。後期との比較は、読書・あいさつに関しては、少しずつ改善傾向にあります。保護者の方や教職員の声かけや、意識をもつ支援を繰り返すことで、改善の方向に向いていることを感じました。早寝早起きに関しては、学年の結果に応じた支援を行うことで、睡眠の大切さを伝えていくことが重要と考えます。

引き続き、前期同様実現度の低い項目は「できていない」ではなく、どのようなことが背景にあり、どのような状況であるのかを把握することが最も大切であると考えます。子どもたちが楽しいと思える学校づくりに力を注いでいきます。

重要度と実現度の結果から

「重要度が高く、実現度も高い項目」は満足度が高いといえます。「重要度が高く、実現度が低い項目」は満足度が低く、「大切とは思っているが、実現は十分でない」と考えられ、改善が見込めるところとなります。一方で、この「重要度と実現度の差」は、より必要と感じている強さの表れであり、期待の込められているところとなります。

実現度を高めていき、満足のある生活が送れるように取組を充実させ、子どもたちの姿の変容をめざします。

次年度の課題として「読書」「あいさつ」「外遊び」を念頭に置き、子どもたちが意欲的に課題に向かえるような支援をしていきます。